

「東郷学園義務教育学校の藤川天神史跡活用の取組」

1 学校名

薩摩川内市立東郷学園義務教育学校

2 学年・人数

4年生 計 39人

3 日時・場所

(1) 学習会等の日時・場所

令和5年2月14日（火） 東郷学園義務教育学校4年1組教室

(2) 発表の日時・場所

令和5年2月21日（火） 藤川天神

4 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について

(1) 名称・時代

藤川天神（ふじかわてんじん）：生保四年（1647年）に再興
臥龍梅（がりゅうばい）

(2) 特徴

藤川天神の祭神は学問の神様として親しまれる菅原道真公である。道真公が太宰府に左遷され、さらに逃れて藤川北野の地に隠退、没したと言い伝えられ、毎年、大晦日から三が日は大勢の初詣客で賑わい、また受験シーズンには合格を祈願する受験生等で賑わいを見せる。

境内の梅園には、約150本の梅の木があり、このうち50株の梅はその幹を地上に伏せ、その姿がまるで竜のように見えることから「臥龍梅」と呼ばれている。

5 保存会や地域との連携の具体

旧藤川小学校では、ふるさと・コミュニケーション科の学習で、「観梅会」を行っていた。この活動は、学校から藤川天神までの道沿い・藤川天神の清掃活動を行い、その後、梅園の臥龍梅のたもとで梅の句を詠むものであった。

旧藤川小学校が平成29年3月に閉校されるに伴い、平成29・30年度は再編先であった旧東郷小学校にて、令和元年度からは東郷学園義務教育学校にて、ふるさと・コミュニケーション科における「地域を学ぶ学習」の一つとして、4年児童が本活動を引き継いでいる。

藤川天神の臥龍梅は、毎年2月中旬から3月上旬に薄いピンク色の花を咲かせる。この時期は多くの観梅客で賑わいを見せる。東郷学園義務教育学校の4年児童は、この梅の時期に合わせて児童一人一人が梅の句を作る。そして、観梅会当日、満開の梅の花を前に自作の句を詠むことで、地域の史跡に対する親しみや誇りを育んでいる。

6 活用の取組の工夫した点

ふるさと東郷には、多くの歴史や文化があり、現在までそのよさやすばらしさを継承している。

4年児童が行う観梅会には、テレビや新聞等多くの報道関係者が訪れ、梅の名所である藤川天神を県下にPRする。また、児童の作った句は、境内の茶屋に掲示され、観光客からも好評である。4年児童にとって、観梅会は思い出深い行事の一つとなっている。

7 取組の様子（研究発表、創作劇等）



観梅会の様子（写真は令和3年度のもの）

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【児童】

藤川天神の臥龍梅の前で、梅の俳句を発表することが楽しみです。テレビや新聞にも出るので、藤川が有名になって観光客がいっぱいくるのがうれしいです。藤川天神や臥龍梅のことをもっとたくさんの人に知ってもらいたいです。

【保護者】

自分が子どもの頃に身近にあっても詳しく調べることはなかった。子供たちが学んだことを聞くことで、改めて東郷を見直すきっかけになりました。子供たちにふるさとを大切に思う気持ちをもっと育てていきたいと感じた。

【教職員】

東郷には、他に誇れる歴史や文化が息づいている。児童生徒がその歴史や文化にふれることで、ふるさとを大切に思ったり、誇りに思ったりすることができると思う。このような学習をこれからも系統的に進めていく必要があると考える。